

ひなたぼっこ大町

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 7月13日

【評価実施概要】

事業所番号	3470204169
法人名	株式会社 ひょうま
事業所名	グループホーム ひなたぼっこ大町
所在地 (電話番号)	広島市安佐南区大町東3丁目1-18 ハートランド大町1F (電話) 082-831-8885

評価機関名	社団法人広島県シルバーサービス振興会		
所在地	広島市南区皆実町1丁目6-29		
訪問調査日	平成19年7月13日	評価確定日	平成19年7月27日

【情報提供票より】(19年6月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 7 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	20 人	常勤	9 人, 非常勤 11 人, 常勤換算 11.2

(2) 建物概要

建物形態	併設 / <u>単独</u>	新築 / <u>改築</u>
建物構造	鉄筋コンクリート 造り	
	6 階建ての	階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33000 ~ 40,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有() 円	<u>無</u>		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	370 円	昼食	550 円
	夕食	550 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(6月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	3 名	要介護2	9 名		
要介護3	3 名	要介護4	3 名		
要介護5	名		要支援2	名	
年齢	平均 81.2 歳	最低	58 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	秋山クリニック ・ 松本歯科医院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム「ひなたぼっこ大町」は、賃貸マンション改装型で1階部分が当ホームとなっており、2階から3階が高齢者用、4階から6階が一般者用となっている。開所以来地域との関わりや、高齢者用賃貸マンションの入居者などの関わりをもち全職員で地道に取り組んでおり、ホームの機能を活かしながら交流することに努めている。また、職員は利用者や家族等と日常的に情報提供等を積極的にこなしながら、利用者本位の支援を目指している。建物内のハード面に対する多少の不便さはあるが、職員で話し合いながら使い勝手のよい施設となるように改善に向けての努力がなされている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価では、地域との交流について話し合われていたが、一昨年に町内会に加入をして地域の行事に参加したことを機会に交流がはじまった。また、利用者の方が散歩される時には近隣の方が見守ったり、季節の野菜等の差し入れをいただいたりしており、交流の輪が深まりつつある。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>全職員で自己評価のねらいや活用方法を理解するように努めながら、サービスの質の確保に活かしていく取り組みをおこなっている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議では、きめ細かくホームの状況等や、また地域との関わり及び交流についてはお互いに報告するなどし、話し合いから進められている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>ホームの基本姿勢として家族等の意見や苦情等については、出来るだけその発生要因を探り下げ、課題を検討し、質の向上に繋げるような方法で取り組みをしている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域住民の一員として町内会に加入して地域の行事など地域活動の情報を集めて、そして、それらに参加することによって、その接点を持つための努力を行っている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	現在は、母体の理念を基本として、最近の制度の1つである地域密着型のあり方を目指している。		母体組織の理念を基本に、地域密着型サービスとして何が大切かを常に事業所で自ら考え、独自の理念(例えば年度毎の職員の活動指針)を検討されることが期待される。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティングなどの機会を捕えて、理念を掘り下げて職員全体で十分話し合いながら具体的なケアについて意見の統一を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域住民の一員として、町内会に加入をし、地域の行事などに進んで参加をしたり、また利用者との散歩時には近隣の方が見守りに協力していただくなどこのような地道な取り組みが結果としてみられている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者や管理者は評価制度に積極的に取り組み、サービスの質の確保に活かしていこうとする姿勢で取り組まれている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で取り上げられた検討事項や懸案事項については、参加者はその経過を報告し合いをしながら、一つひとつ積み上げていくようにしている。		運営推進会議の場でホームの理念をわかりやすく伝え、また自己評価や外部評価で明らかになった課題については報告し、その後もモニター役になってもらうなど双方向的な会議となることが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当窓口に対しては、ホームの考え方や実態をよく知ってもらい、考え方や実態を共有する取り組みをおこなっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月発行するホーム便りで現況報告をし、またこのほかの心身の状況については、何らかの変化や問題が起きた時に限らず、きめ細かく報告がなされている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	母体事業所の窓口などには、家族等が意見・苦情を表せる機会のあることを繰り返し説明しながら、出された意見、要望等については前向きに受け止め、活かしていく努力をしている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者にとっては馴染みの職員が継続的に支える体制となっている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外で開催される研修にはなるべく多くの職員が参加できるようにしている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホームへの見学や相互交流研修会にも参加をし、事業所外の人材の意見や経験をケアに活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	相談から利用に至るまでの利用者の視点に立って対応することを大切にしながら、柔軟に支援をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	年長者である利用者から生活の技・知恵などを教えてもらいながら、お互い様という気持ちで感謝するという関係を図っている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、言葉や表情から得た思いや意向を把握しながら支援を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員の視点からみた介護計画ではなく、利用者の暮らしを反映した介護計画となるように取り組んでいる。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画と照らし合わせて、現時点の利用者や家族の状況・ニーズ、サービスの提供状況とずれていないか再度見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	サービスの組み合わせによる多機能性ではなく、本人と家族の暮らしを守るための多機能となるように取り組んでいる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の他、利用前からのかかりつけ医での医療を受診できるよう、ご家族と協力し合い通院介助を行ったり、また複数の医療機関と関係を密に結んでいる。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に伴う意志確認書は事前に作成し、事業所が対応し得る最大のケアについて説明を行っている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ミーティングなどの機会を利用して、プライバシーの保持の徹底を意識付けながら、また本人・家族等に対しては事業所が実施している記録等のプライバシーの確保の立場についても詳細に説明を行い同意を得るようにしている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調に配慮しながら、その日、その時の本人の気持を尊重して、できるだけ個別性のある支援を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立づくりから調理、片付けに至るまで、食事一連の流れを職員が一方的に進めるのではなく、利用者の意志や気持ちを大切に進めている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の習慣やその時の希望に合わせた入浴の支援を行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員主導の楽しみや役割になっていないか常に確認しながら、張り合いや、笑いのある生活が送れるように取り組んでいる。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くへの散歩だけではなく、その人の馴染みの店や場所に出かけており、一緒に出掛けて楽しかったという喜びを持っていただける支援となるように取り組んでいる。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の安全面に配慮しながら、見守りや声かけ及び一緒についていく等の支援を行っている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	利用者と一緒に年2回の避難訓練を実施しており、また地域の協力体制については、町内会をお願いしたりしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分確保については毎日記録をし、職員が情報を共有している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は五感刺激への配慮がなされており、生活感や季節感のあるものをうまく活用している。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者一人ひとりが居心地よく生活できるように使い慣れた家具や身の回りの品が持ち込まれおり、またホームからもご家族に積極的に協力を依頼している。		

介護サービス自己評価基準

認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホームひなたぼっこ大町1

事業所住所 広島市安佐南区大町3丁目1-18 ハートランド大町一階

記入年月日 平成19年6月19日

記入者 職 ホーム長 氏名 三村 千恵

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;"> 理念の基づく運営 </div>				
1 理念の共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	これまでのひなたぼっこ理念は『その人らしくいつまでも』『今までの生活に近い環境を作り出すこと』など住み慣れた地域での安心した暮らしの支援を目指していることを再確認。		再度地域密着型サービスの意義を職員全員で確認し、地域生活の継続を支えるための地域との関係性を深めるよう努めたい。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	ミーティングで理念を掘り下げてスタッフ全員で話し合い、日々のケアの実践に活かしている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	ご家族には訪問時や家族会などで伝えるよう努めている。 地域の方々には町内会の会合、地域の集まりなどでホームを知っていただく機会を作っている。		
2 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	一人で散歩される入居者の方を見守って下さるご近所の方、食器や鉢植えを寄付して下さる方がおられる。迷惑をかけることも少なからずあるので、感謝の気持ちを表すようにしている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	開所以来、トラブルなどで地域との付き合いが進んでいなかった。一昨年町内会に参加し、いきいきサロンなどにも出かけるようにして交流が深まりつつある。		
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	ホーム階上のマンション住民の方々や、町内の方々、いきいきサロンのメンバーなどのかかわりの中で手探り中である。		町内会の地域清掃や行事に参加したり、同じマンションの方々の困りごとを請け負ったりするなど、できるところから取り組んでいる。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

3 理念を実践するための制度の理解と活用

7	<p>評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>自己評価の各項目を深めていくことで、入居者の方一人ひとりがその方らしくホームでの生活を暮らしていただく上での取り組み指標となるので、スタッフ全員が行い全体でも学習している。</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>運営推進会議でホームからサービス内容や評価内容の報告をし、参加者の方から御意見・要望を頂き、ケアサービスの向上に活かしている。</p>		
9	<p>市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>市町担当者に対しても、さらにホームの内容などについて情報交換を行いながら、サービス向上に取り組んでいる。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>ホーム内外の研修で学び、必要な方への対応がより良くなるよう、さらに取り組みたい。</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>虐待アンケート(無記名)を実施したり、研修の機会を持つなど、前向きに取り組んでいる。</p>		

4 理念を実践するための体制

12	<p>契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時には重要事項やホームでできることできないことなどを十分説明するようにしている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。</p>	<p>ご意見・苦情や提案をいただいた時は、それをスタッフ優位で結論付けていないか反省しケアに活かすよう心がけている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいる きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
14	<p>家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。</p>	<p>入居者の方のホームでの生活を知っていただくよう、毎月発行の通信もご家族に見やすいよう工夫し形を変える試みで進化させている。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>直接スタッフに言い難いことも苦情窓口などに意見を下さるのでホーム運営に反映させている。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>年2回の個別面談を設けたり、ミーティングで意見を聴いたりしているが、スタッフから管理者へは言い難い面もある。管理者へ意見を言しやすい雰囲気作りに取り組んでいる。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>入居者の方の自由な暮らしを支えるよう、起床時や就寝時、犬の散歩時間など入居者の方の状態やペースに合わせた柔軟な体制を組んでいる。</p>		<p>柔軟な体制をとることがスタッフにとって過度のストレスにならないよう、さらに配慮が必要である。</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>基本的には各ユニットのスタッフを固定化し、顔馴染のスタッフによるケアを心がけている。</p>		<p>新しいスタッフの場合も入居者の方にきちんと紹介し、入居者の方からホームの事を教えてもらうような工夫をしている。</p>
5 人材の育成と支援				
19	<p>職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>ホーム外で開催される研修には、どのスタッフも参加できるような機会を設けている。</p>		<p>研修報告は毎月のミーティングで発表してもらい、スタッフ全員の意欲向上の源になるよう取り組んでいる。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>県内のグループホーム事業者交流会、全国組織のグループホーム交流会に参加し、サービス向上に活かしている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	スタッフが入居者の方と離れ、一息入れる休憩時間を取るよう配慮している。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	就業規則が守られている。健康診断の実施などの取り組みが行われている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	相談時よりご本人の不安などを受け止め、信頼関係を築くよう全力を尽くしている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	契約に至るまでに、まずご家族の気持ちを受け止めることに重きを置いている。		
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談をホーム入所に直結するのではなく、ご本人とご家族の困っていることを受け止めて繋げていくよう取り組んでいる。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気などに徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	退所が少ない現状で、地域密着型ではあるが緊急性がある入所の際は、いきなりの開始となるので工夫を重ね安心して暮らしていくよう支援している。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ともに支えあうという関係は奥が深くおこがましいが、人間同士としての関係性が基盤となるよう努めている。		年上の入居者の方から学ぶことが多い。褒めるとお上手だと謙遜されるが、前向きに伝える姿勢に取り組んでいる。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	入居者の方をご家族と一緒に支えるために、ご家族の思いを受け止めるようミーティングで話し合い、スタッフ間での共有に努めている。		
29	本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	開所以来数年経つと入居者の方とスタッフが家族のように気持ちが親しくなるが、入居者の方ご本人とご家族のより良い関係が続くよう両者の絆を大切にすることをきめ細かく取り組んでいきたい。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ホームに入所されてもこれまでの近所の方やお友達と交流するよう支援している。		馴染みの喫茶店や図書館・友人宅を訪問する機会を支援している。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	長年暮らしてこられた我が家を離れての生活は思い通りにならないことや不安も多い中で、入居者の方同士、仲の善し悪しを配慮し孤立してしまわないよう支援している。		場面によって入居者の方同士、なだめ役になったり、相談者になったりして支えあう力を引き出すよう支援している。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	他のホームへ行かれた方々へも入居者の方と一緒に訪問したり、電話をされる。スタッフも退所されたご家族の相談にのったりしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々のかかわりの中で把握に努めている。言葉や表情などから真意を推しはかり、それとなく確認するようにしている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	把握が難しい入居者の方からはご本人自身の断片的なお話を寄せ集めて、ご自分らしい生活が送れるよう支援している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	入居者の方一人ひとりの生活リズムを理解するとともに、行動や小さな動作から感じ取り、ご本人の全体像を把握している。		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	入居者の方ご本人の希望、ご家族の願い、スタッフの日々の気付きや意見を反映し、話し合いながら計画を作っている。		
37	状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	毎月のミーティング時の入居者の方の個別カンファレンスにおいて問題提起・見直しをして新たな計画に反映させている。		
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	入居者の方の個人記録とともに月毎ミーティングに向けての入居者の方一人ひとりの課題をプレミーティングで準備・検討している。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	ご本人、ご家族の状況に応じて、通院や送迎など必要な支援は柔軟に対応し、それぞれの満足度を高めるよう努めている。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	町内会や民生委員の協力で行事に安全に参加したり、公民館のいきいきサロンを活用したり、区民文化センターでの催しや図書館利用など普段の生活において協力を得ている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41	<p>他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。</p>	<p>必要に応じてホーム以外のサービスとつなげるよう地域のケアマネージャーと連携を図っている。</p>		
42	<p>地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。</p>	<p>運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加するようになり関係が強化された。周辺情報や支援に関する情報交換・協力関係を築いている。</p>		
43	<p>かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。</p>	<p>ホームの主治医のほか、2ヶ所以上の歯科診療を受けている。他の医療機関もご家族の希望を大切にしている。</p>		
44	<p>認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>近隣に専門病院があり、必要に応じて指示や助言をもらっている。</p>		
45	<p>看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>非常勤の看護スタッフを配置しており、常に入居者の方の健康管理や状態変化に応じた支援に取り組んでいる。</p>		
46	<p>早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>入院時にはご本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供し、なるべく混乱が少ないよう早期退院の体制を取っている。</p>		
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。</p>	<p>重度化に伴う意見確認書を作成し、ホームのケアについての説明を行っている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<p>重度化や週末期に向けたチームでの支援 重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>まだまだ重度や終末期に向けての支援については描ききれていない。ご本人・ご家族や主治医との取り組みを深める必要がある。</p>		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。</p>	<p>他の居所へ移り住む際も入居者様にとって混乱が軽減するよう、きめ細かな情報提供や支援を心がけている。</p>		
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>				
<p>1 その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>プライバシーを重んじた言葉かけ・対応について深めるように心がけている。記録では個人名などをアルファベット表記し、通信などの個人情報の取り扱いに関してはご本人・ご家族の同意を得ている。</p>		<p>ミーティングなどで考え方を深めるようスタッフ間で話し合っている。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>心がけて援助に取り組んでいる。支援を継続し更なる取り組みを行う。</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>入居者の方一人ひとりの希望に添って支援に取り組んでいる。</p>		<p>職員のペース優先になりがちなので、さらなる取り組みが必要である。</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>				
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>それぞれの希望に応じた理容・美容を選んでいただき、ホームでの毛染めなども提供している。</p>		<p>その人らしい身だしなみの支援について自己決定がしにくい入居者の方についても、スタッフが一緒に考えて、ご本人の気持ちに添った支援をさらに深めたい。</p>

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	朝の買出しに始まり、お米とぎだけ、皮むきだけと一人ひとりの入居者の方の力を活かして援助を行うよう、声かけなどを工夫している。		食事習慣(生活習慣)の違う方々が揃っての楽しい食事の雰囲気作りができるよう、気配りなどに配慮している。
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	ご本人の好みのものを気軽に希望していただけるように努め、また、入居者の方の様子や気持ちを察知してスタッフから提案するよう心がけている。		
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	薬の副作用で失敗される場合も多いが、プライドを傷つけないように工夫し、周囲に気付かれないよう配慮している。		ポータブル使用の入居者の方に対する周囲の入居者の方からの配慮を続けている。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	毎日入りたい方、入浴は嫌いな方、それぞれの希望を叶え、入浴して気持ち良かったと喜んでいただけるよう支援している。		入浴が嫌いな入居者の方への誘いが難しく、タイミングを工夫するようスタッフで話し合い、試みを続けている。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	日中にできるだけ希望の外出や意欲向上を図ることで、夜間に熟睡できるような生活リズムを作るよう支援している。		夕食前後より安心して過ごして頂けるような援助の工夫を継続し、状況に合わせてスタッフの体制も増やしている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	張り合いがあるということがホームでの生活にとっても大切なことだとスタッフが認識し、笑いのある生活を支援するよう心がけている。		役割や楽しみと同時に一人ひとりの入居者の方のストレスがたまった時には息抜きや気晴らしができるような支援をさらに深めたい。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	こづかいを持ってご自分で買物を楽しまれたり、必要な小物を購入できるよう支援している。		ご家族に希望に添うよう、こづかい帳を作ったりしてご本人やご家族の不安を解消している。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
61	<p>日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。</p>	<p>友人宅や馴染みの喫茶店など個別の希望を叶えると同時に、一緒に出かけて楽しかったという喜びも支援するよう心がけている。</p>		<p>できるだけきめ細かく、希望に添って外出するように援助を継続していきたい。</p>
62	<p>普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。</p>	<p>映画館に出かけたり、転居された方を訪問したり、展覧会に出かけたりする機会を作り支援している。</p>		<p>『温泉に行きたい』『一泊旅行をしたい』という希望を計画中だが、実現できていない。</p>
63	<p>電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>自由に電話を使っただけのような雰囲気作りに努め、居室に電話機が持ち込めるようにしている。</p>		<p>家族や友人への手紙のやり取りができるよう、きめ細かく支援することに取組んでいきたい。</p>
64	<p>家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。</p>	<p>気軽に訪問していただけるよう、まずスタッフが笑顔で迎えるよう心がけている。</p>		<p>ご家族の都合が良い時に気兼ねなく訪ねていただけるよう配慮し取組んでいきたい。</p>
(4) 安心と安全を支える支援				
65	<p>身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>ミーティングなどで身体拘束をしないケアについて学習している。</p>		<p>日々のケアを振り返ることを通して、身体拘束しないケアを実践継続したい。</p>
66	<p>鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。</p>	<p>日中はスタッフが鍵を開けている。自由に外出される入居者の方にはそっと見守り、遠くに出かける様子なら危険のないように付き添うよう支援している。</p>		<p>日中、短時間でも鍵をかけないよう支援したいと思うができていない。玄関入り口が死角となることや隣のユニットとの兼ね合いなどの解決が必要である。</p>
67	<p>利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>	<p>入居者の方の動きやサインを察知できるよう、スタッフはさりげなく常時見守り支援を行っている。夜間は特に二時間毎に利用者の方の様子を確認するとともに、対応がすぐにできるよう夜勤スタッフの居場所を工夫している。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
68	<p>注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>	<p>包丁・ハサミや裁縫道具も自由に使えるよう支援している。</p>		<p>入居者の方の状況変化に応じて配慮できるよう、ミーティングで話し合ったり、申し送りや情報を共有するよう努めている。</p>
69	<p>事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>	<p>ヒヤリハットを記録し、スタッフの認識共有を図っている。小さな事故もご家族への報告と今後の予防対策について検討している。</p>		<p>洗濯物干しや犬の世話などでの事故が起こらないよう、さりげなく見守りなどの支援をしている。</p>
70	<p>急変や事故発生への備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期期に行っている。</p>	<p>消防署の協力を得て、2年に1回全スタッフが救急救命講習を受けている。</p>		
71	<p>災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。</p>	<p>年2回以上避難訓練を入居者の方方と行っている。町内会とも防災についての話し合いを持ち、協力をお願いしている。</p>		
72	<p>リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。</p>	<p>一人ひとりの入居者の方のご家族とケアプラン作成時などを通じて話し合う機会を持っている。</p>		<p>ご家族に十分納得・理解していただくために、さらなるご家族との話し合いや信頼関係を続けている。</p>
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	<p>体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>特に誤嚥性肺炎予防、皮膚疾患予防、心筋梗塞再発予防などにも取り組んでいる。入居者様の生活習慣はすぐには変わらないので、変化の早期発見に努めている。</p>		<p>変化などがあれば情報を共有し、看護師や主治医とも協力し早期対応に努めている。</p>
74	<p>服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>服薬ファイルを活用し、確認のうえにも確認を心がけている。</p>		<p>入居者の方の服薬についての理解が必要とされるので、処方などの変更には情報共有を心がけている。</p>

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	術後の入居者の方はもちろんの事、便秘が及ぼす影響を考え、活動や飲食物の工夫をし、自然な排便ができるよう取り組んでいる。		野菜などで繊維質をしっかり摂取するとともに散歩、買物、食事など身体を動かす機会を支援している。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	口臭や入れ歯のトラブルがないよう配慮し、入居者の方一人ひとりきめ細かな援助を心がけている。		拒否反応のある入居者の方の気持ちに配慮し、時間をかけて入居者の方のペースに合わせて支援している。
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	入居者の方一人ひとりの嗜好を把握し、献立に取り入れながら栄養バランスにも配慮している。		食事摂取状況を毎日記録し、スタッフ間で情報共有している。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している。 (インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	季節・地域の感染症発生状況の情報収集に努め、早期発見・早期対応を心がけている。		ホームで起こった感染症、今後起こりうる感染症について主治医とも連携を取りながら、スタッフ間で学習に取り組んでいる。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	新鮮な食材を提供できるよう、ほぼ毎日買物に出かけている。冷蔵庫や冷凍庫の点検・整理などにも取り組んでいる。		台所・調理器具などの清潔を心がけ、まな板・ふきんなども夜間に毎晩漂白している。
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りが出来るように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	ホームは六階建てマンションの一階であるが、木製の表札や草花で家庭的な雰囲気だと来訪者に好評を得ている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	昨年度外部評価で食卓テーブルの上の天窓の日差しが強かったので調節・工夫する旨期待するとのご意見をいただいた。天窓の日よけネットを薄いものから色の濃いものに取替え、天窓の内側に設置したところ入居者の方に好評を得ている。		ダイルームと台所が繋がっていて入居者の方が家事などに参加しやすい点は好ましい。反面、台所の音でテレビや会話が聞こえにくくなることも有り配慮している。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	玄関ロビーにテーブルと椅子、奥にもソファを置き、庭やウッドデッキでも自由に過ごして頂けるよう工夫している。		庭に犬の日よけも兼ねた折りたたみテーブル&チェアを置いていたが、椅子の脚が折れやすく入居者様の転倒の危険があったので取り除く。
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れた家具や生活用品・装飾品などが持ち込まれており、入居者様一人ひとりが居心地よく過ごせるよう配慮している。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	季節やその日・その時の温度・湿度・換気に注意し、入居者様一人ひとりの状態に配慮して行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	台所の調理用ワゴンが入居者の方方には高かったので、良い高さに作り変えた。犬の世話をされる時に膝を痛めないよう椅子を作った。度々外の空気に触れて頂くよう、庭の半分をウッドデッキにした。		食卓椅子の座面が広くて食事時に適切な姿勢を取りにくい様子が伺える。誤嚥予防などに配慮しどのような椅子が入居者様にとって良いのかスタッフで考慮中である。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	わかりにくいこと、混乱を招きやすいことなどご本人の不安材料を取り除き、ご自分の力を発揮しながら暮らせるよう努めている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	玄関先にベンチを置いて涼まれたり、中庭のウッドデッキでおやつや花・犬の世話をする空間を作っている。		

介護サービス自己評価基準

認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホーム ひなたぼっこ大町2

事業所住所 広島市安佐南区大町3丁目1-18 ハートランド大町一階

記入年月日 平成19年6月30日

記入者 職 ホーム長 氏名 野田 愛

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

理念の基づく運営

1 理念の共有

1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	住み慣れた地域でその人らしく、安心して暮らしていけるよう支援		地域に密着したサービスを再確認して、その人らしく生活していけるよう、地域との関係作りをしていく
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	スタッフ採用時には理念の説明をしている。 また、ミーティング等で話し合っている。		採用時には、説明に加え理解してもらえるようにしていく。 ミーティングではもっと話し合い、ケアに繋げていく。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	ご家族には、面会時などに話している。 運営推進会議などで町内会・ご近所の方にホームを知っていただいている。		町内会の催し物(いきいきサロン等)に参加していきたい。

2 地域との支えあい

4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	買物先・散歩時・畑仕事の際には近所の方と挨拶を交わしている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会に入り、町民運動会などに参加している。		今年より、町内の子ども会とも交流していく方向。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	町内会・いきいきサロン等に取り組んでいこうとしている。		町内会の行事などに参加して、ホームでできる事を模索中。
3 理念を实践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価をスタッフ全員で取り組み、ミーティングなどで理解を深めようとしている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	ホームでの取り組み、サービス内容を報告し、また参加者の方からも意見を頂き、ケア・サービスの向上を目指している。		
9	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	現時点ではなかなか機会が得られてないのが現状		情報交換など積極的に関わっていきたい。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	ホーム内外での研修で学んでいるが、実際は関わることがない為、万全ではない。		必要な支援を提供出来るように、さらに学んでいきたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修などで学習し取り組んでいる。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時は重要事項、ホームでできる事・できない事など十分に説明している		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	利用者からの意見・不安などその場で解決できないものはミーティングで話し合い、その後のケアに活かされるよう取り組んでいる		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月通信にてお知らせし、その他にも個別にアルバムを用意して通信だけでは伝えきれないものを補っている。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会時などに、常々問いかけ何でも言ってもらえる雰囲気作りに留意している。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ミーティングで意見を聞いたり、個別で面談している。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	その時の状態に合わせ柔軟な体制を組んでいる。		スタッフの急病や休み・利用者の状態の急変時などもっと配慮が必要。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>各ユニットの職員をなるべく固定し、顔なじみのスタッフによるケアを心がけている。</p>		
<p>5 人材の育成と支援</p>				
19	<p>職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>ホーム外研修になるべく参加できるようにしている。</p>		
20	<p>同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>他グループホーム等に見学して、その意見や経験をケアに活かせるよう努めている。</p>		
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>休憩時間を設けているが、実際には難しい状態。</p>		<p>休憩が取れる環境・状況を用意していきたい。</p>
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。</p>	<p>就業規則が守られており、健康診断などスタッフの健康管理が行われている。</p>		
<p>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p>				
<p>1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>				
23	<p>初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。</p>	<p>相談時から事前面談までご本人の不安を取り除き、信頼関係が築けるよう取り組んでいる。その後、体験入居を行っている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	まずはご家族の思いをゆっくり聞く事で共感し受け止め、話を進めている。		
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談時にご家族・ご本人の状況を把握・確認した上で、必要なサービスにつなげるようにしている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならな馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	通常はホーム見学・事前面接・体験入居と段階を踏むが、緊急の場合はご家族の協力を得たり、スタッフ内での工夫や連携で安心感を持っていただけるようにしている。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩であるという事をスタッフ間で共有し、食事作りや・畑作りなど利用者から教えていただく場を設けている。		
28	本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	面会時や電話などで現在の状況を報告し、また困っている事等の相談に応じている。その事はミーティングでスタッフ共有している。		
29	本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	ご本人・ご家族それぞれの思いを受け止め、お互いの思いが結びつくように取組んでいきたい。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入居後も、以前お付き合いのあった知人やお友達との交流が続くよう支援に努めている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	スタッフが日々の中で関係作りの橋渡しとなり利用者同士の輪が保てるような働きかけをしている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退居後も、転居先や入院先への訪問をしたり、ご家族から近況を伺ったりしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中で把握に努めている。意思疎通の困難な方はご家族からの情報を得るようにしている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前より、ご本人やご家族から情報を得ている。また入居後も関わりの中で把握に努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	できない事よりできる事に注目し、その人全体の把握に努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	利用者本人・ご家族の希望を聞き、スタッフの意見も反映したうえで作成している。		
37	状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	状態の変化やご本人・ご家族の要望に応じて見直しをしている。		
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個人記録の記入をし、ミーティングでの話し合い・検討している。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	その時々々の要望に応じて、通院・送迎など柔軟に支援している。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	町内会などの協力を得て、行事等に参加している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	図書館や町内会の行事に参加している。また訪問理容サービスを利用している。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加するようになり、関係が強化され、周辺情報や支援に関する情報交換、協力関係を築いている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	受診・通院はご本人・ご家族の希望・状況に応じて対応している。また入居前からのかかりつけ医での受診もご家族と協力しながら行っている。		
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	近隣に専門医院があり、必要に応じて受診し、指示や助言をもらっている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	非常勤の看護職員を配置しており、健康管理・状態の変化に応じた支援をしている。		
46	早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	ご本人の支援方法に関する情報を医療機関に提供し、お見舞い時には看護師長やご家族と情報交換している。またホームでの生活復帰の為、医療機関へ要望をその都度伝えている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。</p>	<p>ご本人・ご家族の意向を入居時、入居後などその都度確認し医師・スタッフ間で連携をとっていけるよう勤めている。また主治医よりご家族への説明もしてもらっている。</p>		
48	<p>重度化や週末期に向けたチームでの支援 重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>終末期への支援はまだ不十分だが、ホームでどこまで可能か医師へ相談し助言をもらっている。また管理者だけでなく、スタッフの意見も聞くように努めている。</p>		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。</p>	<p>他へ移られる際には、情報提供を細かく行えるよう心がけている。</p>		
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>				
<p>1 その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>自尊心やプライバシーを損ねないように心がけている。また写真などもご本人・ご家族の同意を得て掲載している。</p>		<p>スタッフの意識向上をミーティングで図っている。また必要に応じて個別に面談している。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>利用者に合わせた支援が出来るよう取り組んでいるが、まだ不十分。</p>		<p>意思疎通の困難な方の自己決定への支援を深めていきたい。</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>一人ひとりの要望・状態に応じて対応しているが、まだ不十分。</p>		<p>スタッフ優先であったり、他入居者優先であったりする為、一人ひとりにあった支援ができるよう努めていきたい。</p>

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	基本的に衣服・化粧などご本人に決めてもらっている。 自己決定の難しい方はスタッフが決めている。		入居後より同じ理美容室で希望にあったカット等している。
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	その日のメニューを一緒に考え、米とぎ・調理をしている。スタッフも同じ食事を食べ、会話を大切に楽しく食事できるようにしている。 また畑の野菜を収穫し、それらを使って調理している。		メニューを考える際、「何でも良い」と言われる方が多いので、好みを聞いたり、食べたいと言ってもらえる雰囲気作りを心がけていきたい。
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	お好きな物を把握し、買物時に購入したり、おやつ時などにお出ししている。		
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	誘導する事で、紙パンツから布パンツへ変更している。 ご本人のプライド・羞恥心に配慮した声掛けやさりげない誘導を心がけている。		排泄パターンを更に把握していき、尿取りパットの使用も減らしていきたい。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	気持ちの良い入浴を心がけている。		就寝前・夕食後の入浴希望の方への対応ができていない為、今後の課題としている。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	日中の活動を促し、昼夜逆転・不眠に繋がらないよう支援している。 昼食後など、その方にあわせて短時間のお昼寝をしてもらっている。		夕方にかけて不穏になられる方に対しての支援をスタッフ間で検討していきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	一人ひとりのお好きな事を活かし、畑作り・らっきょう漬け・買物・掃除などをお願いしている。 またホーム全員での外出もしている。		手伝っていただき過ぎるとストレスに繋がったり、お願いの仕方でも気分を害されることがある為、ミーティングなどで勉強していきたい。 特別ではなく日常の中での役割・楽しみをさらに増やしていきたい。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご家族の協力を得て、少しの金額を持っている方は、買物時などご自分で購入されている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天候・体調などに応じて、日常的に散歩・買物・畑・ドライブに出掛けている。 手作り弁当を持って出掛けることもある。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	美術館など個別に出掛けている。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	自由に使っていただけるよう支援している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	スタッフは笑顔でゆったりとし、気軽に訪問していただける雰囲気作りを心がけている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	ミーティングなどで勉強している。		身体拘束のないケアを継続していきたい。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	居室などは鍵をかけていないが、玄関は施錠している。		玄関の施錠をしない方向で支援していきたい。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	常時さりげない見守りをし、安全に配慮している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	自由に使ってもらっているが、注意の必要な物品は決められた場所に保管している。 針やはさみは使用前後に個数の確認をしている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	ヒヤリハットを記入し、スタッフ間で共有の認識をもつようになっている。 ご家族へはその都度報告している。		
70	急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的にしている。	消防署の協力を得て、2年に1回の救命救急講習を受けている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年2回の避難・消防訓練を行っている。 町内会へも協力をお願いしている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	面会・ケアプラン作成時、個別にご家族と話しあっている。		さらなる理解と協力を得られるようする。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	小さな変化を見逃さず、記録や報告でスタッフ全員が情報を把握するよう努めている。 また看護師への相談・必要であれば受診対応している。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	処方箋綴りを活用している。 処方の変更・副作用など看護師・管理者より情報の共有を図っている。		処方変更時など更に詳細な記録を心がけたい。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	繊維質の多い食材の使用や、十分な水分の摂取、散歩などで身体を動かす事を心がけている。		便秘の原因・及ぼす影響など、ミーティング等で学習していきたい。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	食後に口腔ケアの声掛けや、必要な方へはブラッシングを行っている。		口腔ケアの必要性を勉強していきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	嗜好を把握し、献立に採り入れ栄養バランスに配慮している。 個別に摂取量の記録をしている。必要な方はさらに細かく記録している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり，実行している。 (インフルエンザ，疥癬，肝炎，MRSA，ノロウイルス等)	情報収集し、早期発見・早期対応を心がけている。		ミーティングで予防・症状・対応策など勉強している。
79	食材の管理 食中毒の予防のために，生活の場としての台所，調理用具等の衛生管理を行い，新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	布巾・まな板などの漂白、魚介類調理後は熱湯消毒などスタッフ間で取り決め、実行している。		魚介類などは買物当日に使い切るようにしている。
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族，近隣の人等にとって親しみやすく，安心して出入りが出来るように，玄関や建物周囲の工夫をしている。	木製の表札・ベンチ・季節の花などを置いている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関，廊下，居間，台所，食堂，浴室，トイレ等)は，利用者にとって不快な音や光がないように配慮し，生活感や季節感を採り入れて，居心地よく過ごせるような工夫をしている。	食器の音、調理の匂いなど自然に感じていただいている。 家具の配置・飾り付けなども相談しながら行っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	廊下にソファを置き自由に過ごしていただいている。		テーブルを置くスペースがなく、その都度テーブルを運んでいる為、なかなかゆっくりできていない。
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れた馴染みの家具をそれぞれ持ち込まれている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	居室は常に換気している。ディルームも日に何度か空気の入替えをしている。		湿温度計の設置をしていく。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	一人ひとりに合わせた椅子・テーブルの高さにしている。さらに足台を作成し使用している。		さらに工夫していきたい。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	混乱・不安要素を取り除き生活できるよう工夫し支援していけるよう心がけている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	畑を確保し、日常的に作業や収穫ができる環境を作っている。		